

女性活躍推進フォーラム in 東京 第1回

人材育成委員会主催、
今年度第

「1回となる『女性活躍推進フォーラムin東京』が6月20日、東京・



七

冒頭に前田竜哉委員長は、全4回を通して取り組む企画提案について、「企画は自分が嬉しいものでいいし、仲間に喜んでもらえるような視点で考えてもいい。難し

く思わず、この1年間はとにかく楽しむことだけを考えて取り組んでもらえれば」とあいさつした。

続けて「組織を超えた同業の仲間と会える機会は貴重なので、このフォーラムを有効的に活用してほしい」と話し、その他テレビドラマのセリフを引用するなど緊張をほぐすようにユーモアを交えながら参加者を激励した。

立川美夏子氏が講演
実務講座では(株)エンタテインメントビジネス総合研究所の立川美夏子氏が「インバスクエット思考～究極の判断力を身につける！！～」と題して講演

した。インバスケットとは未処理箱という意味で、限られた時間、架空の立場で案件を処理するゲームのこと。このゲームを通して優先順位決定力や判断力、問題解決力を身につけることを目的とする。今回の設定の舞台はタピオカミルクティ店の開店初日。主人公は1号店のクレープ店でアルバイト歴7年、3号店となる新店の店長に抜擢された里奈(26)。オープンの12時まであと1時間と迫った午前11時に様々なアクシデントが起り、一気に10もの案件が発生。この局面をどう乗り越えるか——というもの。参加者は里奈になつたつもりで案件ごとに

「重要度も緊急度も高い」

「重要度は高いが緊急度は低い」

「重要度は低いが緊急度は高い」

「重要度も緊急度も低い」

の4つに分けながら処理をしていく。まずは一人ひとりがシミュレーションし、グループごとにまとめて発表した。別々の案件を



田内(右)講師の立川美夏子氏、(左)司会に抜擢されたオータの日野あかり氏



グループワークの内容を発表する参加者

参加者（順不同、敬称略、(株)略）

Aグループ=大石理沙（ABC）、長澤美幸（ニラク）、松井愛（メッセ）、瀧口美樹（アブリイ）、中地瑞貴（オータ）
Bグループ=松谷千代（慶尚〔セントラルグループ〕）、土性愛幸（日拓リアルエステート）、太田歩美（東和産業）、守谷澪乃（善都）、斎藤彩奈（メッセ）
Cグループ=竹内華愛（マルハン）、齋藤実花（ウエスタンコーポレーション）、奥居愛莉（平成観光）、寺戸舞子（安田屋）、石黒千晴（日拓リアルエステート）
Dグループ=小河原まどか（マルハン）、見城央の（アブリイ）、上野沙羅（ピーアークホールディングス）、中西日和（NEXUS）、宍戸綾実（オータ）
Eグループ=東田なつき（平成観光）、富田紗枝子（NEXUS）、大下唯（アサヒディード）、大矢佳央梨（安田屋）

る。追われる仕事を作らないために、事前に考えておくことが大切」と述べた。

5グループで企画立案

講演後はグループディスカッショニに移り、5グループ（5人4組、4人1組）で「女性活躍推進」をテーマに自分たちの企画を立てた。それぞれの自社での制度や現状の問題などを洗い出し、それらをとつかかりにしながらどのような企画内容にするかを話し合った。

また昨年度まで委員が行っていた司会には、前回の参加者で優勝チームのメンバーであるオータの日野あかり氏が抜擢された。日野氏は経験を生かして参加者の様子

を見ながらアドバイスに回るなど、司会に留まらず積極的に関わった。

最後に場所を移して懇親会が開かれた。普段知り合う機会の少ない他社の女性社員と交流し、有意義な時間を過ごした。

東京でのフォーラムは今年5年目を迎え、全4回のスケジュール。

12月の4回目には派遣担当者を招いてのプレゼン大会が予定されて

いる。

人材育成委員会

6月20日

日本橋三洋グループビル
出席委員等13人

次のフォーラムなど協議

同日行われる「第1回女性活躍

推進フォーラム in 東京」の流れの確認を行った。前回のフォーラム参加者に司会を任せるという初めての試みもあり、前回苦労した点など経験したこと踏まえてよりin九州についても情報共有した。

業界の人事関連課題の整理と研究については人材育成フォーラムを年明け1～2月をめどに開催する方向で計画を検討しており、参加対象者やレポート作成など実施

に向けて内容を協議した。

継続事業である女性活躍推進アンケートは、今まで審議してきた内容から変更なく進めいくことを委員会内で確認した。

広報調査委員会

6月13日
本部会議室
出席委員等10人

ワークショップで「依存対策」

ファンアンケート2019

エリアの偏り解消へ

同時並行で取組みが進んでいる委員会の主要3事業「広報担当者フォーラム」「ファンアンケート2019」「女性活躍推進アンケート」について、それぞれの進捗状況報告と協議が行われた。

8月1日に東京・八重洲で開催される「第4回 広報担当者フォーラム」については、広報担当者フォーラムワーキンググループ（WG）が5月21日、講演講師をつとめる「株ネタもど」カスタマーリレーションズ部兼メディアリーショーンズ部の山方隆士氏と打ち合わせを行った結果を報告した。さらに同WGによる「概要」「タイムスケジュール」のたたき台も提案され、グループ別に行うワークショ

ップの内容や進め方についての意

見交換も行われた。ワークショップでは全体共通テーマと、各グループで選択する個別テーマの2項目を話し合ってもらう。共通テーマを話し合つてもらう。組みをどのように広報すればよいのか、意見を出し合う。6月末から組みをどのように広報すればよいのか、意見を出し合う。6月末から参加者の募集を始める。

マは「依存問題対策についての広報」。自社や業界の依存対策の取り組みをどのように広報すればよいのか、意見を出し合う。6月末から組みをどのように広報すればよいのか、意見を出し合う。6月末から参加者の募集を始める。

が6月4日に調査会社と打ち合わせを行い、新設計について協議した内容を説明、手順の確認などを行つた。新設計では日本を9のエリアにわけて店舗数の構成比を算出。回答数3000取得を目標にエリア構成比にあてはめて協力依頼先の数を割り出すなど、緻密さを向上させる。

回答数の少なさが課題として挙げられてきた「女性活躍推進アンケート」については、改善策として調査期間を7月に前倒しにすることや、回収締め切りまで1か月間を確保すること、さらに調査票をダウンロードしやすくするなど工夫を凝らすことが承認された。